

# 令和8年度 研究助成の選考結果について

(一財) 北海道開発協会 開発調査総合研究所長 目黒 聖直

当協会では、北海道開発に関する社会科学分野を対象に道内の大学等高等教育機関で研究を行っている研究者に助成を行っています。令和8年度研究助成は、「デジタル時代の地域通貨とまちづくり」にかかわる研究を対象として、令和7年11月から令和8年2月10日までの間、道内各地の大学等から応募をいただきました。

応募のあった研究については、当協会に設けた研究助成選考委員会を開催し厳正な審査を行いました。これを踏まえて今年度は、次表の3件を選考しました。

当協会では今後も本研究助成事業を続けていく予定です。毎年度作成する研究助成募集要領をご参考のうえ、意欲的なテーマで応募されることを期待するものです。

## 令和8年度 研究助成選考結果

〔「デジタル時代の地域通貨とまちづくり」にかかわる研究〕

申請者・所属	助成研究テーマと研究の目的
小山 雅之 札幌医科大学 医学部 教授	<p><b>【デジタルヘルスポイントを活用した高齢者の生活空間拡大と地域活性化に関する研究－札幌健康アプリ「アルカサル」のまちづくり効果の検証－】</b></p> <p>令和8年4月に本格実施される札幌健康アプリ「アルカサル」は、歩行や社会参加等の健康行動にデジタルポイントを付与し、電子マネー交換を通じて地域経済への還元を可能とする「行動変容型デジタル通貨」である。</p> <p>本研究は、アルカサルのポイントを「デジタル地域通貨」と位置づけ、高齢者の生活空間を定量化するLife Space Assessment (LSA) を用いて、ポイント獲得行動が外出範囲・社会的つながり・地域経済循環に与える効果を包括的に検証する。地理的剥奪指標 (ADI) と地理情報システム (GIS) 分析を組み合わせ、地域特性とデジタル通貨利用の関連を可視化し、まちづくりへの提示を得る。</p>
鈴木 勲 名寄市立大学 保健福祉学部 准教授	<p><b>【名寄市電子地域通貨YOROCAが大学生の地域参加を通じて子育て支援・福祉理解および地域定着意識に及ぼす影響に関する研究】</b></p> <p>本研究は、名寄市における電子地域通貨「Yoroca (ヨロカ)」について、大学生の認知および利用実態を把握し、地域参加との関連を明らかにすることである。あわせて、利用経験と子育て支援・福祉への関心および地域定着意識との関係を分析し、若年層と地域との関わりの特徴を整理する。さらに、これらの結果を踏まえ、地域通貨を活用した地域参加の促進および地域理解の深化に資する具体的方策を検討し、今後の地域施策への示唆を得ることを目的とする。</p>
* 森 傑 北海道大学大学院 工学研究院 教授  中島 佑太 北海道大学大学院 工学研究院 特任助教	<p><b>【短時間ワークシェアリング報酬のデジタル地域通貨化による受容性と行動変容の分析】</b></p> <p>本研究は、北海道空知郡奈井江町で実践されている短時間ワークシェアリング事業「しごとコンビニ」を対象に、業務報酬の支払手段を日本円からデジタル地域通貨に置き換えた場合に、依頼主 (地域事業者等) および稼働者 (地域住民) の受容性と行動変容を明らかにすることを目的とする。</p> <p>具体的には、地域通貨による報酬支払いに対して双方が許容可能と考える報酬上乘せ額 (プレミアム) の均衡点を把握するとともに、発注・決済手続きのデジタル化が小規模業務の発注行動に与える影響を実証的に検証し、短時間ワークシェアリングの利用促進と地域経済循環への寄与を明らかにする。</p>

\* 共同研究の代表者 (※所属及び職名は令和8年4月1日現在)